

新世代光無線アクセスシステム技術の研究開発（日本ビクター株式会社）平成15年度中間評価結果

整理番号	評価	所 見	再評価	再 所 見
13 - 08	A	<p>サブテーマ については、キーとなる技術の特許が積極的に取られており、知的財産形成という点で高く評価できる。サブテーマ については、論文発表が適切に行われており良好であると思われる。本提案を実現するための技術的なハードルはそれほど低くはないが、個々のハードウェア技術とそれを支えるソフトウェアの部分が着実に進展しており、今後の発展が期待できる。一方、本システムがどのようなところに使われるのか、無線LAN等の競合する技術との住み分けは可能なのか、という点については、現時点では不明確であり、予想も難しい。受託者から応用に関する積極的な提案が必要であると思われる。また、サブテーマ の検討については、具体的・実践的な検討を行う段階ではないので、成果については評価が難しい。今後、学術的な成果に留まらず、サブテーマ と適切な連携をとり、成果を具現化させることを期待している。</p> <p>事業化に関しては、受託企業内の中期計画に盛り込まれており受託企業内での注力度も高いと評価できる。当該受託企業は、国内OA用光無線LAN市場では大部分を占め、実績等十分と判断できる。事業化プロセスは明確であり、事業化体制も概ね妥当である。競合する方式に対する技術的優位性等を確保したうえで、性能の実現性の検証を十分行うことで収益の確度が上がると考えられる。</p>		